

《目的》服装は着装する「場」との関係で相応しい、あるいは相応しくないと感ずることが多い。街や室内で着られている服が、その「場」に相応しいと思うのは何に起因するのかについて、実験的手法を用いて検討を試みる。服装そのものの形態の印象や実態調査はよく見かけるが、生活構造の一側面である空間との関連については研究が非常に少ない。ここでは、空間の中で、特に「場」と「服装」との適合のイメージについて考察する。

《方法》「場」については、野外および室内において人のいない場約1400枚の写真を撮影し、その中から、「外空間」として野外の場40、「内空間」として室内の場40を選定した。「服装」については、雑誌から背景を除いた男性および女性の着装写真約800枚の中から、「男性服装」40、「女性服装」40を選定した。これらの場および服装の写真を刺激として、SD法（場、服装ともに15形容詞対、7段階尺度）による評定データを因子分析（SAS統計解析パッケージ）し、評価構造を考察した。なお、被験者に建築系男女大学生、及び家政系女子大生を用いた。

《結果》スクリー法により因子抽出をした結果、「外空間」では4因子、「内空間」では3因子、また「男性服装」及び「女性服装」では2因子が基本的因子として抽出され、環境系に比べ服装系の方が単純な評価構造がみられた。これらの因子に対する因子得点をもとに、特徴的な「場」と「服装」の写真を選定し、両者間の適合度を調べた結果、場にはそれぞれ相応、不相応と感ずる服装があることがわかった。